

Minami Kyushu University Syllabus						
シラバス年度	2023年度	園芸キャンパス		都城キャンパス		
科目名称	人間植物関係学特論Ⅱ			実務経験	○	Active・L ○
科目コード	642588	単位数	2単位	学位授与方針との関連	DP1, DP2	
教員氏名	林 典生					
授業概要	人間と植物の関係の歴史や思想及び造園福祉の流れ等を踏まえ、緑地環境や植物の保有する効果について、その枠組みや評価方法を検討するとともに、社会への展開や人と緑との関係に関する研究、人が能動的に植物と関わるガーデニング活動の福祉の活用等、植物・緑の多面的な機能について解説する。 また、これらの検討・解説したことを踏まえ、多様な社会的課題に対し、他者にわかりやすく提案・実践できる知識と能力を習得する。					
関連する科目	同時に園芸福祉特別演習を履修するとともに、履修前に人間植物関係学特論Ⅰ・造園福祉学特論Ⅰ、履修後に造園福祉学特論Ⅱを履修すること					
授業の方法と進め方	授業の流れは前半にテーマに関する配布資料等で人間と植物との関係にかかわる基本概念や基本知識を再確認するために講義を行う、後半に事前に指定した国内外の論文・書籍をまとめてきた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行います。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス 人間植物関係学の学際性について 授業の進め方を説明するとともに、資料の読み方に関する講義を行う。</li> <li>植物・緑が持つ多様な機能について 植物・緑が持つ多様な機能を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>人と植物・緑の関係に関する研究の動向 人と植物・緑の関係に関する研究動向を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>植物・緑による効果の測定手法 植物・緑による効果測定を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>ガーデニング活動を計測する ガーデニング活動を計測手法を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>植物・緑の教育的効果に関する事例 植物・緑による教育的効果を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>植物・緑による社会的効果に関する事例 植物・緑による社会的効果を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>ガーデニング活動とまちづくり ガーデニング活動によるまちづくりの可能性を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>植物・緑を用いた療育に関する事例 植物・緑を用いた療育事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>高齢者分野におけるリハビリテーションとしてのガーデニング活動 高齢者のリハビリテーション事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>環境教育に関する事例 植物・緑を用いた環境教育事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>しょうがい者分野におけるリハビリテーションとしてのガーデニング活動 しょうがい者分野におけるリハビリテーション事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> <li>生涯学習に関する事例 植物・緑を用いた生涯学習事例を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。</li> </ol>					
授業の達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>人間と植物との関係を理解している。【教養・専門分野の知識・理解】</li> <li>植物や緑の多面的側面について評価できる。【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】</li> <li>既往の研究や事例から正確な情報を把握できる。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】</li> <li>植物と緑との関係をわかりやすく伝えることができる。【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】</li> </ol>					
授業時間外の学修	第1回目の授業で示す参考図書など、主に基礎的な人間植物関係論に関する資料を授業前に読む。授業後に理解が曖昧な時は再度精読する。また、人間と植物の関係についての知見を深め、社会的意義を理解するために、身近な地域に赴き、その実態や位置づけなどについて考察を深める。予習復習4時間程度必要です。					
課題に対するフィードバック	課題等は確認した後に返却します。必要に応じてコメントします。	評価方法・基準		受講態度や発表、報告物に関して、課題の理解、関係資料の活用、論点の整理、独自の視点について毎回のプレゼンテーションレポート（100%）で評価する。		
テキスト	関連書籍及び関連論文					

参考書	授業中に紹介するが一例として、以下の書籍を紹介する。 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編（2001）心理学研究法入門 調査・実験から実践まで、東京大学出版会（都城キャンパスに蔵書有） 今田高俊編（2000）社会学研究法 リアリティの捉え方、有斐閣（都城キャンパスに蔵書有）
備考	近畿圏内の複数の医療・保健・福祉・生涯学習の現場での勤務（社会福祉士・精神保健福祉士と中学校・高等学校教員免許に基づいて）やボランティア活動のなかで園芸療法・福祉の実践を行ってきた。現在も都城地区周辺を中心に実践や人材育成を行っており、それに基づいて授業内容に反映させる。